

●個別学習

■児童生徒実践型

実践タイトル タブレットPCを用いて体験的に学習する

本時のねらい

前時までに学習した電車やバスの乗り方や昼食の注文の仕方を復習し、校外学習へとつなげる。そこで、ICT機器を用いて切符の券売機やバスのプザー、車窓の風景などを再現することで、実際の場面に近い学習環境で体験的に学習したり、校外学習を楽しみにする気持ちを高めたりできるようにする。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

タブレットPC

切符を購入する手順を覚えたり、自分の力でメニューの注文をしたりすることができるようになることを目標に、タッチパネルで操作できるタブレットPCで作成した教材を提示し、児童が実際に操作する活動を設定した。

PC教材

電車やバスなどをイメージし、実際の場面に近い環境の中で児童が学習を進められるよう、バスのプザーのアプリケーション（「次とまります」）を用いたり、プレゼンテーションソフトウェアを用いて券売機の画面や注文用VOCA<sup>®</sup>の教材を自作して児童に提示した。

参考にしてほしいポイント

タッチパネルで操作できるタブレットPCは、児童にとって操作しやすく、操作した結果がすぐに現れるため障がいのある児童にも因果関係を理解しやすい。また教材を画面に映したり、自分で操作した物が画面上で動いたりするだけで、児童の注目度が格段に上がることを実践から感じている。知的障がいの特別支援学校では、実際に体験することから学び、達成感や自信が得られることも多い。本実践では、アニメーションやリンク、音声添付などの機能のあるアプリケーションを用い、児童の興味やねらいに応じたオリジナルの教材を作成し、タブレットPCを活用することで、児童が自ら操作し、体験から学ぶ学習に生かすことができた。

学習の流れ(分)	主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カレンダー</li> <li>・写真・絵カード（学校、駅、店舗、電車、バス）</li> </ul>
	10	
本時の展開	45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットPC</li> <li>・PC教材（券売機の模型）</li> <li>・〃（自動改札の模型）</li> <li>・〃（バスのプザー音）</li> <li>・デジタルテレビ・タブレットPC（車窓の風景）</li> <li>・メニュー表、メニューの模型</li> <li>・PC教材（注文用VOCA<sup>®</sup>）</li> <li>※VOCA（Voice Output Communication Aids：音声出力型コミュニケーションエイド）</li> </ul>
	50	
	55	
	70	
まとめ	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習を振り返り、上手にできたところを確認する。</li> <li>・一人ひとりのよいところを教師が称賛する。</li> <li>○翌日が校外学習であることを確認する。</li> </ul>



写真1：タッチパネルの券売機で切符を買う



写真2：デジタルテレビに映した車窓の風景を見る



写真3：タブレットPCでメニューを注文

児童生徒の反応

タブレットPCに対する児童の関心は高く、学習活動に導入してすぐに操作を覚えたり、必要なものを選択したりする姿が見られている。本時においても、タブレットPCで作成した券売機の画面をよく見て必要な金額のボタンにタッチしたり、発語のない児童も食べたいメニューを自分で選択して伝えたりすることができた。

活用効果

評価の観点	関心・意欲・態度
具体的変容	券売機、自動改札、車窓の風景など、実際に近い教材や環境の中で学習することで、公共交通機関の利用に必要なスキルを身に付けながら、校外学習への期待感を高めることができた。また、自分の力で切符を購入したり、AAC（拡大、代替コミュニケーション）ツールを使って食事の注文をしたりすることで、自己への自信を高め、初めてのことにもチャレンジしようとする意欲が芽生えてきた。

実践の手応え

児童が高い関心を示すタブレットPCは、教材や支援具の一つとして上手に活用していくことで、児童の主体的な学習活動へとつなげていくことができる。同時に児童の実態や興味・関心に応じて、ねらいや提示する教材を使い分け、学習内容や状況によりデジタルとアナログを組み合わせたり、使い分けたりすることで、児童の力を伸ばす教材や学習環境を整えることが重要である。